

# 磐城時報

十日 八日 日刊  
編輯人 岡田 弘成  
印刷所 磐城時報社  
印刷部 磐城時報社  
電話 二一四  
廣告料 一行十文字 日金五拾錢  
訂金 一月 日金五拾錢  
一月 日金五拾錢  
半年 日金二拾五圓  
一年 日金四拾五圓  
（日曜、祭日）休刊

## 平魚市場に對抗した 新取引所の悩み

### 地元民から反対された上 魚卸商も反対の決議

平町鮮魚商鈴木又六氏を主眼とし、出入り事とし従前通する一部鮮魚商人は、販報の如く平魚市場に於て取引し同市場平魚市場に反対し平町白銀町元を飽くまで支持援助する事を決平町場跡に共同取引所を設け二議したが、平魚市場に對抗の意十五日から取引を開始する旨發味で新設した共同取引所は、昨表したが、鮮魚商に魚類を供給報の如く先づ地元民から不衛生する濱三郡魚商組合員二十余名であること反対された上魚商も魚は昨十七日合協議の結果、新類を供給せぬとなれば經營不能らしく設けられた平町場跡の取な事は火を見るより明かである

## 依然下押の 大浦農業倉庫

### 出荷三百八十俵

石城郡大浦村農會四倉驛前農業者の整理を断行したが又々職工倉庫では十五日共同米の販賣を約五十余名を解雇する事に決定行つたが三等米十圓五十五錢、本月下旬から四月上旬にかけて四等米十圓二十七錢、五等米九錢發表する筈で従業者は戦々々々圓八十七錢で値段は依然居据りとしてゐる。の状態、總計三百八十四俵販賣された。

## 警城セントで 五十名解雇

三月下旬發表 四倉町警城セント株式會社四事によつて魚類の來遊を阻止さ倉工業所では財界不況のため生れるの結果營業が干あがり將に産を制限し一ヶ月の半分は休業死活に關する一大事なりとして状態であるため數回に日り從業之が對策を寄々協議し反對氣勢

## 四倉漁業で 大敷網に反對

四倉漁業組合出願の定置漁業に對し四倉附近の元小舟漁業者は對し四倉附近の大規模な投網される同校講堂に於て舉行されるが卒業者氏名左の如し（イ、ハ、ロ順）

- ▲卒業者氏名左の如し（イ、ハ、ロ順）  
▲看護婦卒業生  
五十嵐キヨ、早坂キヨシ、長谷川キヌ、新妻マツ、新妻タミ、大森孝子、小島キヨ、大

## ▲平産看校卒業式

町南町平産看護婦學校第廿三回卒業式は明十九日午後二時より同校講堂に於て舉行されるが卒業者氏名左の如し（イ、ハ、ロ順）

- ▲卒業者氏名左の如し（イ、ハ、ロ順）  
▲看護婦卒業生  
五十嵐キヨ、早坂キヨシ、長谷川キヌ、新妻マツ、新妻タミ、大森孝子、小島キヨ、大

## 資本家の番犬……と 警察を罵る老婆

### 山代吉宗の實母と判明

水戸共産黨事件の巨魁山代吉宗の實母石城郡湯田町石畑山代とめ（五七）が去る十五日午前二時頃行商からの歸途湯田町内を通行中折柄特別執行で警戒中の四名の變裝せる警官に誰何されたことから警官との間に喧嘩となりその際とめは負傷したが警官が殴打した結果なりとして十六日午後三時平署に怒鳴り込み相手にされず、平署前の廣場で「資本家の犬」など過激な演説をしたので評判となつてゐる

- ▲山代吉宗の實母と判明  
和田アサノ、大平リノ、渡邊米倉サツキ、龜岡ハナ子、田部マサ子、立花美代、根本トミ、遠藤ミツ、國井サイ子、熊坂ヨシ子、矢野キセ、山田美津、山城キク、松本エイ子、古市トキ、合津タハ、淺井清子、安藤ふゆ、佐藤よし子、佐藤ハナ子、佐藤チヨ子、三瓶サツ子、酒井キキ、坂本ツメ子、宮田トク、椎名正子、篠原かつ、安戸操、平子トラヲ、樋川ハルコ、末永ミツ、鈴木ハナ、鈴木アサ、以上四十三名

谷川寅次郎氏の改選期を控へ極めて猛烈なる暗闘が進行はれたその結果は反對側の勝利に歸し組合長には長谷川長八氏が當選就任を見届出で来たから組合新幹部今後の態度と出願漁業権の問題こそ興味深いものと注目されてゐる。

## 泥酔者検束 石城郡内

郷村白水不動澤炭坑夫坂場菊松（四七）は泥酔して平町南町新妻與三郎方外敷ケ所を暴行し途上を徘徊して通行人に喧嘩を吹きかけ十六日平署に検束された

## 懷舊の情を胸に秘めて 築立つ磐城女卒業生

### 新見學務課長臨席 優等生は五名

本縣女師二部へ入學と決定。館野清子（一七）さん、磐中教諭三郎氏の長女でバレーボールの選手、卒業後は自宅で家事の見習。  
桐谷まさ（一七）さん、元磐中校長文平氏の長女で漫畫がお得意、女子高師入學を志望勉強中。  
上澤まさ（一八）さん、四倉町の材木商上澤小次郎氏の四女、女子中等學校庭球大會出場の選手、四年になつてからめきめきと成績をあげた、卒業後は無試験で二階堂体操専門學校入學と決定した。

## 一日三回 時を知らず

平町場跡にある時の鐘は標準時を知らせる唯一の機關として平町では巨費を投じて郵便局と電話の連絡によつて時報を報じてゐるが、今平町場跡は驛構内に二百ポルトのモーター・サイレンを取付け二十日頃から午前六時、正午、午後五時の三回鐘を鳴らし驛關係者のみならず平全町民に標準時を知らせる事となり、非常時には警笛にも代用するといふので一般から喜ばれてゐる。

## 野崎縣議の態度 平水道擴張工事の起債も 近く認可の段取り

平町に於ける民政黨町議野崎満藏氏外四町議が、わが黨の緊縮政策に反するからとて當初より猛烈に反對を續けて来た平町の上水道擴張工事起債問題も、野崎氏等と提携し、代議士比佐昌平氏等の奔走によつて近く認可の段取りとなり問題もここに落着となつたところ、水道問題が落着して容易にクワのつかないのは、反對側の野崎町議等一派である、古來からいへば比佐代議士も民政黨員であり、野崎氏も同黨員である以上は比佐代議士などは野崎氏等と提携し、反對に立つべきであるに拘らず、比佐代議士などは比佐氏の參謀とする秋原町議と共に認可の急先鋒となり活躍したので、平三町民から同氏の今後の態度は頗る注目を惹いてゐる。

